

# 美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第3回）

## 議事要旨

日 時：平成 29 年 2 月 2 日（木） 13:00～15:15

場 所：ダイヤビル 2 号館 2 階 222 会議室

### 【議事】

#### 1. 議事

- 1) 指摘事項と対応方針(案)
- 2) 運用計画
- 3) 試験運用計画（案）
- 4) モニタリング調査計画（案）

#### 2. 今後の予定について

### 【議事要旨】

#### 1. 指摘事項と対応方針について

事務局説明 ■ 第 1 回委員会の指摘事項と対応方針（案）及び第 2 回委員会の議事要旨（案）について説明

主な意見等 ● 第 1 回委員会の指摘事項と対応方針（案）の横越流堰からダム湖に流入する状況の確認について、越流量に加えて越流土砂量や粒径の観測ができると望ましい。

● 第 2 回委員会の議事要旨（案）については、特になし

#### 2. 運用計画及び試験運用計画について

事務局説明 ■ 湖内堆砂対策施設の運用計画について、基本運用と中小出水運用の検討した結果と試験運用計画（案）を説明

主な意見等 ● 本格運用までに、環境に配慮した下流河川の濃度（SS）上限値を設けるため、下流河川の濃度（SS）と環境との関係を確認する試験運用を実施する必要がある。

なお、濃度（SS）と付着藻類などの環境影響の関係については、過去の調査結果などを机上で整理し、この関係を事前に分析しておくことが重要である。また、避難場所についての調査、検討も事前に実施しておく必要がある。

● 試験運用では、下流河川環境に影響の小さい濃度（SS）から複数出水で段階的に濃度（SS）を上げて確認する必要がある。

また、これまでの検討や模型実験で確認されている法肩浸食による土砂流

出メカニズムを実際の施設で確認し、その後の試験運用に反映することが必要である。

- 中小出水における法肩浸食での土砂流出は濃度（SS）が非常に大きくなることが想定されることから、流出土砂量をコントロールすることによる下流河川環境への影響の面ではメリットがあると言えるが、操作の確実性や複雑な操作による人的負担も考慮し、実行可能な計画にする必要がある。なお、濃度（SS）の予測を用いて操作行う場合は、実際の濃度（SS）と差が出ることに配慮する必要がある。
- 環境に配慮する範囲について、本川への影響を考慮し、本川を含めた予測も行った上で運用計画を立てる必要がある。
- 運用計画について、濃度（SS）の低減は、湖内堆砂対策施設の運用方法によるだけでなく、美和ダムからの放流水による希釈の効果など別のメニューも検討する必要がある。

### 3. モニタリング調査計画について

**事務局説明** ■ 今後実施する施設モニタリング調査及び環境モニタリング調査の計画について説明

- 主な意見等**
- 湖内堆砂対策施設の運用により人為的な濁度負荷による濃度変化を与えることになるので、濁度を空間的・時間的に連続観測し、濁度変化が下流河川に与える影響の調査が必要である。中小出水による中小規模の攪乱では、河畔植生に堆積が進むことが想定され、その影響により河畔植生が育ってしまい魚類等の生息環境に影響を与えることになる。このことを考慮してモニタリングを実施する必要がある。
  - 高遠ダムの影響について、高遠ダム貯水池内における濁水濃度をモニタリング調査し、完全混合されるのか検証すべきである。
  - モニタリング調査計画の項目及び地点等について、概ね提案のとおりでよい。なお、モニタリング調査のデータは点情報なので、これを補完する意味で、それぞれの流量の時にどの辺が低流速域となるかなど、事前に検討し、モニタリング調査結果と併せて評価する必要がある。
  - 下流河川的环境保全について、魚類のための小規模な避難場所を維持・創出するなどの工夫が必要である。また、漁獲高、種類、数量を漁業組合から情報収集し、整理しておくことが重要である。

### 4. 今後の予定について

**事務局説明** ■ 来年度実施する第4回以降の議事概要及び開催時期について説明

**主な意見等** ● 特になし

以上